

令和8年3月5日

令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	台東区立根岸幼稚園
所在地	台東区根岸3-9-7

1. 活動のテーマ

<テーマ>

表現

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子供たちの興味関心、園の特色など)

本園は博物館・動物園だけではなく子規庵・東京藝術大学などの施設が徒歩圏内に充実し、地域の伝統文化とも関わりが深い。このような環境を生かしながら本物に触れることを通して幼児の興味関心を広げ、一人一人の感性を養い、自ら表現する楽しさを味わい、さらに探求し続ける心を育てたいと考え、テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

- ・登園時に藝術大学生によるコンサートを通して、クラシックの世界に週3回程度触れる。自らが音を探したり、音にあわせて体を動かしたりして、自分たちの音楽表現に意欲的に取り組む。
- ・和太鼓演奏や舞踊を通して、日本にある楽器や表現に触れ、実際に自分たちで音作りや表現遊びを行い、表現する楽しさを感じる。
- ・俳句作りでは講師の先生と共に、さらに五・七・五で自分の気持ちや気づきを表現する楽しさを感じる。(動物園での親子吟行・カルタ制作・カルタ会 句集作成等)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・楽器 (鈴・カスタネット・トライアングル・和太鼓など)
- ・朝コンサートで使用する譜面台
- ・和太鼓演奏の講師の招聘、その後遊びにつながる太鼓やバチなどの環境
- ・舞踊、その後遊びに使える音楽や環境
- ・俳句の会の講師の招聘、文字集めなど言葉遊びの環境

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

- ・週3～4回程度朝コンサートを実施。チェロ、ビオラ、バイオリン、和鼓の奏者が、朝の15分程度演奏をする。子供たちが近くのベンチに座り、クラシックを聴き、園歌・童謡と一緒に歌う。コンサート終了後に楽器に触れさせてもらったり、楽器や楽曲について説明を聞いたりした。
- ・コンサートでは演奏を聴き、曲に合わせた楽器（カスタネット、鈴、ウッドブロック、ギロ、ハンドベル）を選び、その場で表現する体験をした。
- ・和太鼓、舞踊の鑑賞会を年3回実施。
- ・月1回程度の俳句の会を実施。
- ・親子で上野動物園に行き、動物を見ながら子供のつぶやきを集めたりワークシートに取り組んだりし、講師にアドバイスをもらいながら俳句作りを行った。
- ・五文字や七文字の言葉やテーマに関する言葉などの言葉遊びや、夏休みや日々の生活の中で作った俳句を講師に見ていただき、振り返りを行った。
- ・作った俳句の中からカルタを作り、カルタ会を行った。
- ・1年間のまとめとして俳句集の作成。
- ・日本の伝統文化に触れ、講師から教えてもらいながら和太鼓を叩く経験をした。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

【3歳】日々の朝コンサートで音楽に触れる機会が多いことから、音に興味をもって遊ぶ姿が見られた。空き缶や箱を丸めた広告紙で叩き、音の違いを楽しんでいた。また、カラフルなエッグマラカスも耳を澄ませて、色ごとに音の高さが違うことに気付いていた。和太鼓の会の後には、段ボールや身の回りの遊具を太鼓に見立てて叩く遊びや、神楽を見て遊びに取り入れる5歳児を真似ておかめのお面や扇子を自分たちで作って踊る姿が見られた。違いを感じたり、真似してみたいと思ったりしたことを遊びに取り入れ試したり表現したりする姿につながった。

【4歳】朝コンサートで繰り返し和太鼓奏者と小鼓を叩いたり木遣を歌ったりしたことで、遊びながら自然と木遣を歌うなどの遊びや生活の中に取り入れ楽しむ姿が見られるようになった。巧技台や中型積み木を使って舞台を再現し、祭囃子や童謡などの曲に合わせてスズやタンブリンを鳴らし、リズムをとりながら体を動かして表現する楽しさを感じていた。親子で俳句を作りそれをカルタにして繰り返し遊ぶ中で、友達が作った俳句や言葉に興味をもった。

【5歳】器楽演奏と舞に触れる機会を設けたことで、幼児が、音を奏でる面白さや美しさ、また、音に合わせて体を動かさず面白さに気付くことができた。それらの感動体験が幼児の遊びにつながる場面があった。たとえば新春の舞踊を見た後は、自分たちで獅子舞とおかめの舞を演じた。お獅子の力強くコミカルな動き、おかめのしなやかな動きや口調を、表現豊かに再現する姿が見られた。ほかにも、俳句の会を通して五・七・五のリズムの面白さと心地よさに気づき、身の回りの五文字や七文字の言葉を集めて俳句をついたり、日常で感じた出来事をふと俳句にししたりするなど、幼児が俳句を身近なものとして親しみをもって遊ぶ姿が見られた。

<活動の様子>



5. 振り返り

(振り返りによって得た保育者の気づき)

【3歳】様々な体験を通して、幼児自身が感じた「素敵」と思ったことや「やってみたい」と思ったことを教師が受け止め、一緒に楽しんでいくことで、繰り返し遊びの中で試す姿や、年長児の真似をして自分たちの遊びに取り入れる姿につながった。一人一人の楽しんでいることを見取り、一緒に楽しんだり一緒に考えたりしていく大切さに気付いた。

【4歳】園のみんなで経験したことが共通体験となり、イメージを共有しながら遊ぶ経験になるのだと気付いた。また、専門家による「本物」に触れることで、感性が研ぎ澄まされ、鈴の音の響きの違いやピオラとバイオリンの音の違いを感じていることに気付いた。

【5歳】すくわく活動を通して、質の良い表現に日頃から親しんでいることが、幼児自身の「私も表現したい」という意欲につながっていることに気付いた。また、様々な表現方法があることや自分なりに表現することを実体験から学ぶことで、幼児が伸び伸びと自分なりの表現を楽しむ姿につながっていることに気付いた。

以上